

## セミダブル咲ダイアンサス ダイナシティ・シリーズ とても豪華で分枝に富んだ F<sub>1</sub> 種セミダブルダイアンサス

- ミニカーネーションのような風貌の花をもったとてもユニークなダイアンサスです
- 花は軽い芳香を放ち、まっすぐに硬くのびるステムをもった、また分枝にも優れた品種です
- 草丈 40-50cm の典型的ニーハイ品種。花壇の背景用やガーデン切花品種としても使えます
- ダイナシティ・シリーズの生育期間は、12-14 週で比較的早生の部類に入りますが、気候によっては一週ほど遅くなることもあります

学名: *Dianthus barbatus interspecific*  
種子粒数の目安: 1,200-1,700 粒/グラム

### プラグ生産ステージ

#### プラグトレイサイズ

406 穴のプラグトレイを推奨します

### 培地

水はけがよく、新しく衛生的な培地を用いましょう。土壌 pH を 5.8-6.2、電気伝導度(EC 値)を 0.75mmhos/cm\*に調整します

### 播種

粗めのバーミキュライトで普通に覆土をし、発芽環境保持のため湿度を高い状態に維持しましょう。トレイをラップなどで覆ってベンチに 6-7 日置いても構いませんが、発芽チャンバーを利用した方が確実にまた高い歩留りで苗を生産できます。チャンバー利用の場合は、いつまでも庫内に放置せず 3-4 日後の適期に取り出します。適切な時期に取り出すことで質の高いプラグ苗の生産につながります。放置し続けると苗がすぐに伸びてしまうので注意が必要です

### 育苗温度

発芽期: 18-20°C  
子葉展開後: 18-21°C(昼間)、15°C(夜間)  
本葉展開後: 15°C(昼間)、13°C(夜間)

### 照度

発芽時には光が必要な植物です。チャンバーを使用する場合は 100-1,000 ルクスの照度で十分な効果があります。30,000 ルクスの照度を得ることができれば、かなり質の高い苗を生産することが可能です

### 湿度

子葉が展開するくらいまでは 95%の相対湿度を維持します

### 肥料

肥料はステージ 3 から開始。週 2 回 14-0-14 を 50ppm(N)と 20-10-20 をやはり 50ppm(N)で交互に与えます。2 週目からは(状況を見ながら)、窒素値の濃度を 100ppm に上げ、このプログラムをプラグ生産のステージが終了するまで続けましょう。

EC 値は、初期は 0.5-0.7mmhos/cm(1:2)くらいで、ステージの後半では 1.0mmhos/cm(1:2)までで調整します。pH はこのステージでは常に 5.8-6.2 を維持します。ステージ 4 の温度が低いときに、葉が変色するようなことがあればリン欠乏の可能性ががあります。その場合、リンを含んだ液肥等で適宜、追肥しましょう。ただしリンを与えすぎると苗は徒長しやすくなるので注意が必要です

### 矮化処理剤(PGR)

3 週齢のプラグに、ボンザイ 60ppm の葉面散布で効果が見られます

ステージ 2: 7-10 日

ステージ 3: 14-18 日

ステージ 4: 7 日

鉢上げ(移植)のタイミングを逃さないように注意しましょう。根詰りを起こさせるとその後の生育に大きく影響します

### 鉢上げから出荷までのステージ

#### コンテナサイズ

9cm から 18cm くらいまでが妥当なサイズ

### 培地

水はけがよく、新しく衛生的な培地を用いましょう。初期養分は中庸に、土壌 pH を 5.8-6.5、に調整します

### 生育適温

苗が活着するまでの移植後の約 2 週間は、昼間温度 18-21°C、夜間温度 15°C を維持します。株の生長を見ながら、後半は昼間温度 15-22°C、夜間温度 11-12°C の範囲が適当です。低めの温度の方が締まった株に仕上がります

## 照度(管理)

電照等による補光は不要です

## 湿度

過湿に注意しましょう。ウドンコ病等の病気の原因にもなります

## 水やり

基本はドライですが苗を枯らせないようにかん水をします

## 肥料

ハウス内で管理する場合は、ポット上げ後1週たつてから、週に一度150ppm(N)の濃度から始めます。ハウスの外で生産の場合は、さらに施肥頻度が上がる肥料設計が必要ですが、EC値は1.5mmhos/cm、pHは5.8-6.2の適正範囲を出荷するまで維持します。生産中にネクロシスが発生したときは、多くの場合カルシウム不足が考えられます。必要に応じて、単体のカルシウム肥料あるいは硝酸カルシウム系の肥料を150ppmほど葉面から吸収させます

## 矮化処理剤(PGR)

草丈の調整の場合は、ボンザイの20ppmを2-4回、葉面散布で効果が見られます。頻度や時期は季節や場所で条件が異なります。基本は、まず定植後1週を1回目として、その後の株の生育状況を見ながら、2回するのであれば2週おき、4回の時は毎週といった見当で実行してみましょう。比較的大きめの鉢(15-20cmくらい)に移植する場合は、B ナイン 5,000ppm とサイコセル 1,000ppm のタンクミックスの葉面散布で効果が見られます。散布の頻度などは上記のボンザイの場合と同じです

## 平均的な生産期間

播種から鉢上げ: 4-5 週(406 穴トレイ)

鉢上げから出荷(開花): 6-8 週(18cm ポット)

播種から出荷: 10-12 週(春-夏出荷)

11-13 週(秋-冬出荷)

## 管理中の病害虫や障害

害虫: 初期のステージでアブラムシがたくさんつくことがあるので注意が必要

## 病気:

ピシウム *Pythium* による根腐れ病は発生頻度が高い。またリゾクタニアによる障害もよく見聞されるので、適宜、防除が必要となります

**注意点:** EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合があります。

2005年9月 改定

# PanAmerican Seed

PanAmerican Seed Co.

622 Town Road, West Chicago, Illinois, USA 60185-2698

630 231-1400 Fax: 630 231-3609 [www.panamseed.com](http://www.panamseed.com)

®および®は、Ball Horticultural Company のアメリカ合衆国、またその他国における登録商標です。

©2003 Ball Horticultural Company Printed in USA PAS02151  
Originally issued as PAS002151 in USA, and under permission translated/revise  
into Japanese in 2005. Printed in Japan